

# 公 民

## 1 学習指導と評価の改善・充実

### (1) 目標と指導内容との関連を十分に図った指導計画の作成

公民科においては、広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うことが求められており、指導計画の作成に当たっては、公民科の目標を達成するため、中学校社会科、公民科に属する他の科目、地理歴史科、家庭科及び情報科などとの関連を図るとともに、全体としてのまとまりを工夫し、特定の事項だけに偏らないようにすることが大切である。

また、指導に当たっては、学習指導要領に示された教科の目標や科目の目標はもとより、次の点などに配慮することが重要であり、生徒の能力・適性、興味・関心を把握することに努め、基礎的な事項・事柄を精選し、教材を準備するほか、一定の内容のまとまりごとに構成されている大項目及び中項目の趣旨や学習指導のねらいを明確にし、指導内容との関連を十分に図ることが大切である。

#### 【第3款 各科目にわたる内容の取扱い】

1 各科目の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、作業的、体験的な学習を取り入れるよう配慮すること。そのため、各種の統計、年鑑、白書、新聞、読み物、地図その他の資料を収集、選択し、それらを読み取り解釈すること、観察、見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめたりすることなど様々な学習活動を取り入れること。
  - (2) 資料の収集、処理や発表などに当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的に活用するとともに、生徒が主体的に情報手段を活用できるようにすること。その際、情報モラルの指導にも留意すること。
- 2 内容の指導に当たっては、教育基本法第14条及び第15条の規定に基づき、適切に行うよう特に慎重に配慮して、政治及び宗教に関する教育を行うものとする。

#### 【現代社会】（「3 内容の取扱い」の(1)）

イ 社会的事象は相互に関連し合っていることに留意し、社会的事象に対する関心をもって多様な角度から考察させるとともに、できるだけ総合的にとらえることができるようにすること。また、生徒が自己の生き方にかかわって主体的に考察できるよう学習指導の展開を工夫すること。

エ 的確な資料に基づいて、社会的事象に対する客観的かつ公正なものの見方や考え方を育成するとともに、学び方の習得を図ること。その際、統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法などについて指導するよう留意すること。また、学習の過程で考察したことや学習の成果を適切に表現させるよう留意すること。

#### 【倫理】（「3 内容の取扱い」の(1)）

イ 先哲の基本的な考え方を取り上げるに当たっては、内容と関連が深く生徒の発達や学習段階に適した代表的な先哲の言説等を精選すること。また、生徒自らが人生観、世界観を確立するための手掛かりを得させるような工夫を行うこと。

#### 【政治・経済】（「3 内容の取扱い」の(1)）

イ 政治・経済の目標に即して基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成すること。また、客観的な資料と関連させて政治や経済の諸課題を考察させるとともに、政治や経済についての公正かつ客観的な見方や考え方を深めさせること。

ウ 政治や経済について考察した過程や結果について適切に表現する能力と態度を育てるようにすること。

「高等学校学習指導要領」の抜粋

なお、各学校においては、地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じ、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」以外の科目を学校設定科目として設けることができるが、その際は、公民科の目標に基づいた目標、内容であることや、学習指導要領に示されたほかの科目では達成できない目標であること、目標、内容、教材、評価規準、指導

体制等を含めた年間指導計画やシラバスの作成が適切に行われていることのほか、次の点に留意する必要がある。

<学校設定科目を設定し、実施する際の留意点>

- ① 地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じた特色ある教育課程の編成に資するものであること。
- ② 高等学校の教育の目標及びその水準の維持等に十分配慮すること。
- ③ 学習指導要領に示された科目との組合せや履修順序等について十分に検討が行われていること。
- ④ 既存の教科・科目と同様の内容を繰り返し学習する科目や、単に特定の資格取得等の対策のための演習を目的とした科目ではないこと。

(2) 学習評価を通じた学習指導の在り方の検証と指導の改善・充実

学習評価においては、きめ細かな指導の充実や生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する、目標に準拠した評価を着実に実施することが必要であり、各学校には、学習指導と学習評価を一体的に行い、学習評価の前提となる指導と評価の計画や、観点に対応した生徒一人一人の学習状況を生徒や保護者に適切に伝えていくなど、学習評価の改善が求められている。各学校では、生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図っていくことが重要である。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

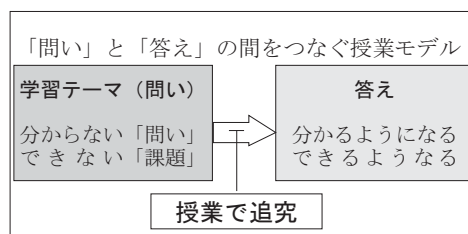
(1) 指導方法や指導体制の工夫改善による個に応じた指導の充実

高等学校においては、生徒の特性、進路等が多様化している中、生徒一人一人を尊重し個性を生かす教育の充実を図ることが重要であり、そのためには、指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図る必要がある。

個に応じた指導のための指導方法や指導体制については、学校や生徒の実態に応じ、学校や教師が自らその工夫改善に取り組むことが大切であり、このことにより、生徒に「確かな学力」を育成する取組の改善・充実が図る必要がある。

(2) 学習指導要領のねらいに即した効果的な指導

「確かな学力」を育成するための指導の工夫改善を図る方法として、授業で「解釈する」、「説明する」、「論述する」などの言語活動の充実があげられる。その際は、右の図のように、生徒にとって分からない「問い」やできない「課題」を学習テーマ（問い）として教師が提示し、授業で追究し、「分かるようにする」、「できるようにする」といった指導が効果的である。



3 単元の指導と評価の例

ここでは、上記の効果的な実践事例として、一定の学習内容のまとめりである単元において、単元の目標に応じた学習テーマ（単元の中となる問い）を設定した単元の指導と評価の計画の例を示す。（地理歴史科のページも参照）

(1) 「現代社会」の単元の指導と評価の計画の例

単元名 (2)ア 青年期と自己の形成

【単元の目標と評価の観点の例】

①教科書の章・節の内容と構造をよく吟味して、生徒の興味・関心や課題意識と照らし合わせて、取り上げるに値する価値ある学習課題（単元のねらい）を設定し、適切な学習内容を組み立てる。

単元名	青年期と自己の形成（9時間）
単元の目標	生涯における青年期の意義を理解させ、自己実現と職業生活、社会参加、伝統や文化に触れながら自己形成の課題を考察させ、現代社会における青年の生き方についての自覚を深めさせる。

②単元の学習課題を明確にして生徒に学習の見通しを持たせたり学習への関心や意欲を高めたりする。

〈単元を中心となる問い〉青年期の意義と、青年期において解決すべき課題とは何だろうか。

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	青年期に対する関心を高め、自己形成の課題を意欲的に追究し、現代社会に生きる青年としての自己の生き方について考察しようとしている。	青年期に関する諸事象から課題を見だし、自己形成の課題と現代社会における青年の生き方について幸福、正義、公正などを用いて多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	青年期に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。	生涯における青年期の意義、社会参加などについて理解し、その知識を身に付けている。

※評価規準は「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）を参考に作成

【学習のねらいを明確に示した単元の指導と評価計画の例】

③学習課題を考察させるための学習過程を定める。単元の始まりでは興味・関心を引き出し次の学習に意欲的に取り組めるよう配慮する。また、生徒の学習意欲が持続するよう、適切な時間数で単元を定める。	④「単元を中心となる問い」を完結させるような小さな問いを設定する。	⑤学習課題と各時限での学習内容とのつながりを明確にする。単元を貫く学習課題の考察が必然的に順次深まるような指導方法や指導形態を組み合わせ、その展開を工夫する。	⑥単元の評価規準、評価場面、評価方法を明確にする。生徒に学習を振り返らせたり、見通しを持たせたりする機会とするとともに、教師が次の単元構想の練り直しのための資料として活用できるよう工夫する。
--	-----------------------------------	---	---

次程	学習内容	評価の観点				評価方法等
		関	思	技	知	
第1次	【ねらい】 青年期の身体的特徴、心理的特徴について、生徒の身近な例を用いて理解させる。	【問い】 高校生は「子ども」だろうか、それとも「おとな」だろうか。 青年期の特徴についてまとめた資料を基に、身体的側面、心理的側面の両方について学び、青年期特有の悩みや、直面する様々な課題についても理解する。			◎	青年期の特徴についてまとめた資料を読み取り理解している。(ワークシート、観察)
第2次	【ねらい】 アイデンティティの確立を理解させ、自己形成の課題について関心を持たせる。	【問い】 アイデンティティの確立とは何だろうか。 青年期は自己の内面と現実社会の葛藤の中から、アイデンティティを確立する時期であることについて理解するとともに、自己形成の課題について関心を高める。		◎		◎ 青年期の発達課題について、エリクソンなどの資料を参考に理解している。(ワークシート) 自己形成の課題について関心を高めている。(ワークシート)
第3次	【ねらい】 自己実現と職業生活の関わりについて考察させる。	【問い】 働くことの意義とは何だろうか。 望ましい勤労観・職業観や勤労を尊ぶ精神について学ぶとともに、自己の幸福の実現と将来の職業生活や人生の充実について考察し、表現する。		◎		自己実現と職業生活の関わりについて適切に考察している。(ワークシート)
第4次	【ねらい】 男女共同参画社会について分析した資料を基に、社会参加と社会的役割について考察させる。	【問い】 男性、女性ともに、よりよく生きるために必要なことは何だろうか。 自己形成と社会参加の関わりや、男女共同参画について分析した資料から、社会参加と社会的役割の在り方を考察し、ワークシートにまとめる。		◎		自己形成と社会参加の関わり、男女共同参画社会について分析した資料を読み取り、考察したことを適切に表現している。(ワークシート)
第5次	【ねらい】 伝統や文化について、自らの行動様式や考え方の関係について考察し、表現させる。	【問い】 伝統文化の継承と新しい文化の創造の関係には、どのようなものがあるだろうか。 伝統を継承し文化を創造することや、伝統や文化を理解することの重要性について学び、伝統や文化と自らの行動様式や考え方の関係について考察し、ワークシートにまとめる。		◎		伝統文化と自らの行動様式や考え方の関わりについて考察したことを適切に表現している。(ワークシート)
第6次	【ねらい】 自己形成の課題について、分析した資料を基に、自己の課題を考察させ、関心を持たせる。	【問い】 青年が「おとな」になる前に達成すべき課題には、どのようなものがあるだろうか。 青年の自己形成の課題に関して分析した資料を基に、自己の人生や進路選択などを視野に入れながら、自らの自己形成に関わる課題について考察し、ワークシートにまとめたことを発表する。	◎			青年の自己形成の課題について考察した資料を基に、自己の課題を適切に表現し、関心を高めている。(ワークシート、観察、発表)
第7次	【ねらい】 生涯にわたる学習の意義について理解させる。	【問い】 学ぶことの意義とは何だろうか。 社会や技術の進展に対応するために、生涯にわたって学習していくことの重要性について理解する。			◎	◎ 生涯学習の重要性について理解している。(ワークシート)
第8次	【ねらい】 現代に生きる青年の生き方について自覚を深めさせる。	【問い】 自分の強み・弱みとは何だろうか。自分が達成すべき課題とは何だろうか。 これまでの学習を踏まえ、自己に対する理解を深めるとともに、現代社会に生きる青年として、よりよく生きることの大切さを自覚する。		◎		単元で学習したことを踏まえ、自分の考えを適切に表現している。(ノート)

※関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：資料活用の技能 知：知識・理解



## (2) 「倫理」の単元の指導と評価の計画の例

単元名	(2)ア 人間としての自覚			
【単元の目標と評価の観点の例】	①教科書の章・節の内容と構造をよく吟味して、生徒の興味・関心や課題意識と照らし合わせて、取り上げるに値する価値ある学習課題（単元のねらい）を設定し、適切な学習内容を組み立てる。			
単元名	人間としての自覚（18時間）			
単元の目標	人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などについて理解させ、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題について思索させるを通して、人間としての在り方生き方について考えを深めさせる。			
②単元の学習課題を明確にして生徒に学習の見通しを持たせたり学習への関心や意欲を高めたりする。	【単元の中心となる問い】 「人間の存在」や「善」、「幸福」、「美」について、自分はどのような考えをもっているか。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	先哲の思想や芸術家とその作品を手掛かりとして人間としての在り方生き方について考えようとしている。	人間としての在り方生き方について、先哲の思想や芸術家とその作品を手がかりとして広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	人間の存在や価値に関わる基本的な課題を探究する学習に役立つ情報を適切に選択して活用している。	自己の生き方に関わる課題が、多くの先哲によって探究された課題と通じていることに気づき、それが人間の存在や価値に関わる基本的な課題であることを理解している。

※評価規準は「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）を参考に作成

### 【学習のねらいを明確に示した単元の指導と評価計画の例】

③学習課題を考察させるための学習過程を定める。単元の始まりでは興味・関心を引き出し次の学習に意欲的に取り組めるよう配慮する。また、生徒の学習意欲が持続するよう、適切な時間数で単元を定める。	④「単元の中心となる問い」を完結させるような小さな問いを設定する。	⑤学習課題と各時限での学習内容とのつながりを明確にする。単元を貫く学習課題の考察が必然的に順次深まるような指導方法や指導形態を組み合わせ、その展開を工夫する。	⑥単元の評価規準、評価場面、評価方法を明確にする。生徒に学習を振り返らせたり、見通しを持たせたりする機会とするとともに、教師が次の単元構想の練り直しのための資料として活用できるよう工夫する。			
次 程	学 習 内 容	評 価 の 観 点				評 価 方 法 等
		関	思	技	知	
第1次	【ねらい】哲学の精神はどのように育まれたのか、理解させる。	【問い】哲学とは何だろうか。 教科書や資料、教師の説明を通して、古代ギリシアで育まれた哲学の精神について理解する。				◎ 教科書や文献資料の内容を読み取り、理由、経緯等を理解している。(ノート)
第2次	【ねらい】「善い生き方」について、ソクラテスや、プラトン、アリストテレス、孔子、老子等の考え方を理解させる。	【問い】「善い生き方」について、先哲はどのように考えたか。 教科書や資料、教師の説明を通して、先哲の「善い生き方」についての考え方を理解する。				◎ 先哲の「善い生き方」についての考え方を理解している。(小テスト)
第3次	【ねらい】「善い生き方」について、先哲の考え方に基つき考察させる。	【問い】先哲の考える「善い生き方」について、最も共感できたものは誰の思想か。 前次までの学習を踏まえ、「善い生き方」について考察し、自分の価値観や考え方について自覚する。	◎	◎		先哲の考え方に基つき、自分が共感する理由について、ワークシートに適切に表現している。(ワークシート)
第4次	【ねらい】「人間の存在」について、キリスト教や仏教、イスラム教における考え方を理解させる。	【問い】キリスト教などにおいて人間の存在をどのように考えているか。 教科書や資料、教師の説明を通して、人間の存在についての先哲の考えについて理解する。				◎ 先哲の人間の存在についての考え方を理解している。(小テスト)
第5次	【ねらい】「人間の存在」について、先哲の考え方に基つき考察させる。	【問い】先哲の「人間の存在」についての考え方のうち、最も共感できたものは誰の思想か。 前次までの学習を踏まえ、「人間の存在」について考察し、自分の価値観や考え方について自覚する。	◎	◎		先哲の考え方に基つき、自分が共感する理由について、ワークシートに適切に表現している。(ワークシート)
第6次	【ねらい】「幸福」について、キリスト教、仏教、中国思想における考え方を理解させる。	【問い】青年が「おとな」になる前に達成すべき課題には、どのようなものがあるだろうか。 教科書や資料、教師の説明を通して、「幸福」について先哲の考えを理解する。				◎ 先哲の「幸福」についての考え方を理解している。(小テスト)
第7次	【ねらい】「幸福」について先哲の考え方に基つき考察させる。	【問い】先哲の「幸福」についての考え方のうち、最も共感できたものは誰の思想か。 前次までの学習を踏まえ、「幸福」について考察し、自分の価値観や考え方について自覚する。	◎	◎		先哲の考え方に基つき、自分が共感する理由についてワークシートに適切に表現している。(ワークシート)
第8次	【ねらい】「善」、「人間の存在」、「幸福」についてグループで交流し、自己の価値観について自覚を深めさせる。	【問い】自分の人間観、幸福観はどのようなものか。 これまでの学習を踏まえ、グループの交流・協議を通して、自分の価値観や幸福観についての自覚を深める。		◎		ワークシートにグループの交流・協議を踏まえ、自分の価値観や幸福観について適切に表現し、発表している。(ワークシート、発表)
第9次	【ねらい】芸術家や芸術作品について調べさせ、自分と芸術との関わりについて考察させる。	【問い】自分のお気に入りのアーティストについて、何が自分を惹きつけるのか。 芸術家や芸術作品について調べ、自分のお気に入りのアーティストについて発表する。	◎	◎		自分の考えを説明するための適切な資料を選択している。(資料) 適切に自分の考えを発表している。(発表)

※関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：資料活用の技能 知：知識・理解

(3) 「政治・経済」の単元の指導と評価の計画の例

単元名 (2)ア 民主政治の基本原則と日本国憲法

①教科書の章・節の内容と構造をよく吟味して、生徒の興味・関心や課題意識と照らし合わせて、取り上げるに値する価値ある学習課題(単元のねらい)を設定し、適切な学習内容を組み立てる。

【単元の目標と評価の観点の例】

単元名	民主政治の基本原則と日本国憲法(21時間)			
単元の目標	日本国憲法における基本的人権の尊重、国民主権、天皇の地位と役割、国会、内閣、裁判所などの政治機構を概観させるとともに、政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治などについて理解させ、民主政治の本質や現代政治の特質について把握させ、政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について考察させる。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用	知識・理解
評価規準	現代の政治に対する関心を高め、民主政治の本質や現代政治の特質を意欲的に追究し、望ましい政治の在り方や主権者としての政治参加の在り方について客観的に考察しようとしている。	現代の政治から課題を見だし、民主政治の本質や現代政治の特質を多面的・多角的に考察し、望ましい政治の在り方や主権者としての政治参加の在り方について社会変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の政治に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。	日本国憲法の基本的性格、政治機構、政治と法の意義と機能、人権保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治など民主政治の基本原則や、民主政治の本質と特質を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。

(単元の中心となる問い) 望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方とはどのようなものだろうか。

※評価規準は「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(国立教育政策研究所)を参考に作成

【学習のねらいを明確に示した単元の指導と評価計画の例】

- ③学習課題を考察させるための学習過程を定める。単元の始まりでは興味・関心を引き出し次の学習に意欲的に取り組めるよう配慮する。また、生徒の学習意欲が持続するよう、適切な時間数で単元を定める。
- ④「単元の中心となる問い」を完結させるような小さな問いを設定する。
- ⑤学習課題と各時限での学習内容とのつながりを明確にする。単元を貫く学習課題の考察が必然的に順次深まるような指導方法や指導形態を組み合わせ、その展開を工夫する。
- ⑥単元の評価規準、評価場面、評価方法を明確にする。生徒に学習を振り返らせたり、見通しを持たせたりする機会とするとともに、教師が次の単元構想の練り直しのための資料として活用できるよう工夫する。

次 程	学 習 内 容	評価の観点				評価方法等
		関	思	技	知	
第1次	【ねらい】政治と法の意義と機能について理解させる。 教科書や資料、教師の説明を通して、政治と法の意義と機能について理解する。				◎	政治と法の意義について理解している。(ワークシート)
第2次	【ねらい】基本的人権の保障と法の支配について考察させる。 教科書や資料、教師の説明を通して、基本的人権と法の支配について考察する。			◎		憲法が定められ国民の自由や権利が保障されていることの意義について考察したことを適切に表現している。(ワークシート)
第3次	【ねらい】権利と義務の関係について、理解させる。 教科書や資料、教師の説明を通して、権利と義務の関係について理解する。				◎	権利は義務を伴うものであること及び公共の福祉という考え方について理解している。(ワークシート)
第4次	【ねらい】議会制民主主義について考察させ、関心を高めさせる。 教科書や資料、教師の説明を通して、議会制民主主義について考察し、関心を高める。		◎		◎	日本国憲法下での政治制度や政治機構がどのような理由で設けられたのか、制度や機構の背景にある民主政治の考え方について考察し関心を高めている。(ワークシート、発言内容)
第5次	【ねらい】日本国憲法における、基本的人権の尊重、国民主権、天皇の地位と役割、国会、内閣、裁判所などの政治機構を概観させる。 教科書や資料、教師の説明を通して、日本国憲法とその下での政治制度や政治機構に基づく民主政治の諸原理とその意義や意味について理解する。				◎	日本国憲法とその下での政治制度や政治機構がどのような理由で設けられたのか、制度や機構の背景にある民主政治の考え方について考察し関心を高めている。(ワークシート)
第6次	【ねらい】地方自治について関心を高めさせる。 教科書や資料、教師の説明を通して、地方自治について関心を高める。		◎			地方自治についての理解を深めるとともに、地方自治に対する関心を高めている。(ワークシート、観察)
第7次	【ねらい】民主政治の本質や現代政治の特質について考察させる。 教科書や資料、教師の説明を通して、民主政治の本質や現代政治の特質について考察する。		◎	◎		民主政治の本質や政治の特質について、資料の読み取り等を通して考察している。(ワークシート、発言内容)
第8次	【ねらい】望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について考察し、関心を高めさせる。 教科書や資料、異なる立場の外部講師の説明を基に様々な角度から考察することを通して、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について考察し、関心を高める。		◎	◎		望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について意欲的に考察し、関心を高めている。(ワークシート、観察)

※関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：資料活用の技能 知：知識・理解

# Topic

## 人権教育の充実について

※人権教育の定義やこれまでの経緯等については平成23年度の手引（公民科）を参照  
 平成25年10月に文部科学省が行った人権教育の取組状況に関する調査では、各学校における人権教育の取組状況は、おおむね定着が図られているものの、大きな進展が見られる状況にまでは至っていないとの分析が示されるなど、課題も明らかになった。各学校においては、以下に示す課題探究型学習を取り入れた取組例なども活用しつつ、人権教育の充実を図る必要がある。

### ■高等学校学習指導要領及び解説（公民編）

－「現代社会」における人権に関する主な内容と課題探究型学習の内容の取扱い－

(2) 現代社会と人間としての在り方  
 生き方  
 ウ 個人の尊重と法の支配  
 個人の尊重を基礎として、国民の権利の保障、法の支配と法や規範の意義及び役割、司法制度の在り方について日本国憲法と関連させながら理解を深めさせるとともに、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等などについて考察させ、他者と共に生きる倫理について自覚を深めさせる。

(3) 共に生きる社会を目指して  
 【解説（内容の取扱い）】  
 課題を探究させるに当たっては、特定の個人・社会・世代にかかわる視点だけではなく、現代社会に生きる人間として課題を探究するよう指導することが求められる。その際、現代社会においては、自己の生き方を他者や社会とのかかわりにおいて考える、つまり「共に生きる」ということや、「幸福、正義、公正」などに基づいて考察させることが大切である。

### ■個別的な人権課題

『平成26年版人権教育・啓発白書』より

- ①女性
- ②子ども
- ③高齢者
- ④障害のある人
- ⑤同和問題
- ⑥アイヌの人々
- ⑦外国人
- ⑧H I V感染者・ハンセン病患者等
- ⑨刑を終えて出所した人
- ⑩犯罪被害者等
- ⑪インターネットによる人権侵害
- ⑫北朝鮮当局によって拉致された被害者等
- ⑬その他（ホームレスの人権及びホームレスの自立の支援等）

### ■「現代社会」において個別的な人権課題について考察する授業の取組例

#### ●単元の指導と評価の計画の例

単元名	(2) 現代社会と人間としての生き方 ウ 個人の尊重と法の支配 (全7時間)						
単元の目標	個人の尊重を基礎として、国民の権利の保障、法の支配と法や規範の意義及び役割、司法制度の在り方について日本国憲法と関連させながら理解を深めさせるとともに、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等などについて考察させ、他者と共に生きる倫理について自覚を深めさせる。						
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解			
評価規準	・個人の尊重、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等などに対する関心が高まっている。 ・民主社会において他者と共に生きる人間の在り方について考察しようとしている。	・現代の民主社会に関する諸事象から課題を見だし、他者と共に生きる人間としての在り方について幸福、正義、公正などを用いて多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	・収集した資料の中から生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等などについての学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。	・全て国民は、尊厳をもつかげがえない人格として、一人一人が尊重されなければならないことについて理解し、その知識を身に付けている。			
時程	学習活動	関	思	技	知	学習活動における評価規準	評価方法
第6時 (資料収集)	・個別的な人権課題について、各グループでテーマを設定し、協議に必要な資料を適切に選択し、ワークシートにまとめる。			◎		・個別的な人権課題に関して、関係機関や様々なメディア等から適切に収集・選択した情報を効果的に活用している。	・ワークシート
第7時 (課題探究) (発表)	・前時で調べた個別的な人権課題の原因、解決方法について、グループで協議を行う。 ・各グループの意見を発表し、感じたことをワークシートにまとめる。		◎			・選択した情報について、幸福、正義、公正などを用いて多面的・多角的に考察している。 ・他のグループの発表について、公正に判断したことを、適切に表現している。	・ワークシート ・ワークシート

#### ●学習指導案の例

本時の目標	個別的な人権課題の中から「女性」、「子ども」、「高齢者」、「障がいのある人」、「アイヌの人々」、「外国人」、「インターネットによる人権侵害」、「ホームレス」等の人権侵害の要因や解決策を探究し、幸福・正義・公正の観点から他者と共に生きる倫理について自覚を深めさせる。				
本時の展開	(7時間のうち7時間目)				
段階	指導内容	学 習 活 動		評価の観点	評価方法
導入	本時の学習について	教師の活動 ・本時の学習のねらいについて、単元全体を振り返り説明する。	生徒の活動 ・本時の学習のねらいについて確認する。	情報収集先の関係機関の例 [女性] 北海道環境生活部道民生活課 [子ども] 北海道環境生活部道民生活課 北海道保健福祉部子ども未来推進局 北海道教育庁学校教育局参事 [高齢者] 北海道保健福祉部高齢者保健福祉課 [障がいのある人] 北海道保健福祉部障がい者保健福祉課 [アイヌの人々] 北海道環境生活部アイヌ政策推進室 [外国人] 北海道総合政策部知事室国際課 [人権全般] 札幌法務局人権擁護部 北海道環境生活部道民生活課 北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課	◎
展開	・付箋紙を用いたグループ協議①	・協議の進め方について説明する。(課題の要因を協議する)	・各グループごとに、一つの人権課題について、収集した資料を基に協議する。		
・付箋紙を用いたグループ協議②	・協議の進め方について説明する。(解決策を協議する)	・「個別的な人権課題のそれぞれの要因・背景は何だろうか？」 ・「人権を保障するために必要な取組は何だろうか？」			
まとめ	本時のまとめ	・グループの発表 ・感想のまとめ	・発表方法について説明する。 ・発表の感想をワークシートに記入させる。	・グループごとに発表する。 ・発表から感じたことをワークシートにまとめる。	・単元全体を通して、学習した内容について確認する。

[参考] 文部科学省ウェブサイトには、高等学校における人権教育に関する特色ある実践事例が紹介されている。  
 アドレス [http://www.mext.go.jp/ya\\_menu/shotou/jinken/jirei/1321696.htm](http://www.mext.go.jp/ya_menu/shotou/jinken/jirei/1321696.htm)